



市長 大久保 博

千葉県

市川市



誰もが個々の能力を生かしながら健やかに、
生き生きと暮らせる「健康都市いちかわ」を
目指しています。

【データ】

- 人口 : 482,544人
- 世帯数 : 237,847世帯
※平成29年3月31日現在
- 特産物 : 梨・海苔
- 主なイベント :
 ツデーマーチ (4月)
 市川市民納涼花火大会 (8月)
 市川市民まつり (11月)

市川市の紹介

市川市は、千葉県の西部、江戸川を隔てて東京都と相対する千葉県の玄関口です。都心から 20km圏内に位置し、住宅都市として発展してきました。都心部と県内各地域を結ぶ広域交通網の集中する位置にあり、JRなど鉄道各線の駅が16あります。また、京葉道路や国道14号のほか、昨年度は市内を南北に縦断する都市計画道路が開通し道路網が発達しています。

交通アクセスの良さから、首都圏のベッドタウンとなっておりますが、北部には梨栽培など農業が盛んな地域があります。また、古くは八幡・菅野地区は高級住宅街として栄え、屋敷街を形成しています。付近には学園が多く、文教都市としての特徴も備えています。南部は、東京湾に臨み、海苔の産地として知られていますが、京葉工業地帯の一翼も担っており、新しい都会的な住宅都市が形成されています。

市川市のみどころ

●市川市の景観まちづくり

市川市では、自然や土地が受け継いできた伝統や文化、まちへの思いや人々の生活などに光を当て、個性的で魅力ある街並みをつくるため「景観まちづくり」を進めています。

「景観まちづくり」は市民が主体となり、事業者や行政と協働しながら取り組んでおり、具体的には、ゴミ拾いや樹木の手入れなどの美化活動、草花や樹木の植栽等で街を緑化すること、建物のデザインなどを周囲と調和させることを行っています。



●市川市の梨&トマト

「市川市のなし」は品質の高さと味の良さが全国的に知られ、特許庁の地域団体商標制度に登録されています。「市川のなし」を使ったグルメやスイーツといった商品開発もされ、取扱い参加店を紹介する「市川のなし食べ歩きマップ」を発行しています。

また、市川で生産されるトマトは桃太郎という品種が中心でみずみずしくて甘く大変人気があり、市内飲食店や菓子店との協力で「市川とまと」を使用したバラエティ豊かな絶品メニューを開発し、市川とまとの魅力をもPRしています。

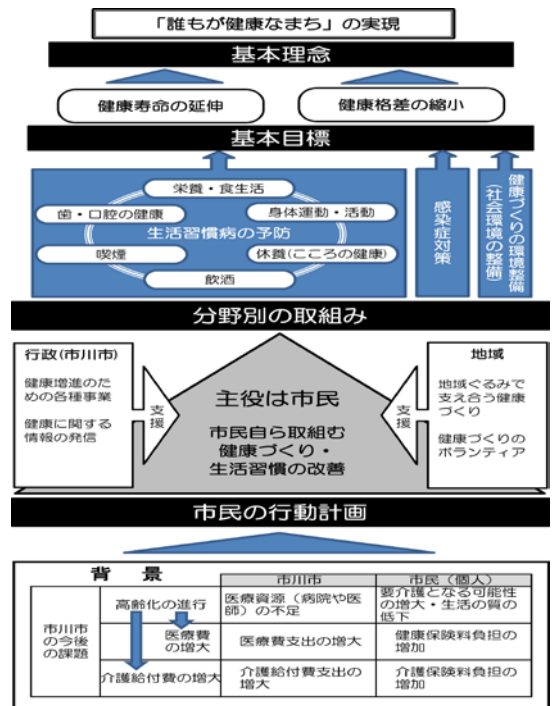


健康いちかわ21（第2次）の取り組み

平成18年3月に生活習慣病の予防に重点をおき、市民の生活の質を向上させることを目的として策定した「市川市健康増進計画」が平成27年度末をもって終了し、平成28年度からは、新たな健康増進計画として「**健康いちかわ21（第2次）**」がスタートしました。

この計画は、子供から高齢者までの全ての市民がお互いに支えあいながら、希望や生きがいを持ち、健やかで心豊かに生活できる「**誰もが健康なまちの実現**」を基本理念とするもので、これを達成するために、「健康寿命の延伸」と「健康格差の縮小」を基本目標としています。

現在、生活習慣の基本要素となる「栄養・食生活」「身体活動・運動」「休養（こころの健康）」「飲酒」「喫煙」「歯・口腔の健康」の6つの分野について、それぞれ課題を抽出し、解決に向けて取り組んでいます。



健康都市に向けた取り組み

●市川市健康都市推進員

市川市健康都市推進員は、行政と協働で健康都市を推進するため、**地域の健康づくりのリーダー**として活動しています。

主な活動は、市民の健康の保持増進に関することについての正しい知識の啓発や情報の提供、環境美化運動、地域福祉活動などです。

また、グループ活動のほか、自主的に任意団体を立ち上げて地域に密着した活動を展開したり、個人で様々なボランティア活動に参加している方もいます。

↓市川市民まつりに参加し、地域の方と昔の遊びを通じ交流



↓昨年度、日本支部大会へ参加



●市川市健康都市推進講座

市川市健康都市推進講座は、健康に関心を持つ市民を増やし、健康都市の考え方を地域に普及することを目的として、和洋女子大学の協力のもと、平成17年から開催しています。

この講座では、人の健康づくりのために運動や食についての知識を身につけ、また、人を取り巻く環境づくりのために市川の産業や文化、まちの環境などについて幅広く学びます。

↓講座の様子



↓昨年度、講座のチラシ

